

新理事長に工藤氏

神奈川県鉄筋

神奈川県鉄筋業協同組合(阿部政彦理事長)は、横浜市のローズホテル横浜で第60回通常総会を開いた。総会と第1回理事会で新理事長に工藤圭一氏(イー・ケー・エス社長)を選任した。今期は改選期だった。総会では、2021年度事業報告・決算、22年度事業計画案・決算案などの全議案を承認した。

総会冒頭、阿部理事長はコロナ禍で組合活動が制約される中、「横浜市建築局との意見交換も行



えた。少しでも組合発展に貢献できた」振り返った。

工藤新理事長は総会後の懇親会で、「皆さんと力を合わせて頑張っていきたい」とあいさつした。写真。

22年度事業計画では、▽横浜市建築局などとの意見交換▽経営合理化事業▽施工能力等見える化申請支援など教育情報事業▽保安事業▽購買事業▽福利厚生事業などを予定している。60周年記念事業の準備も進める。(5・23)





ひと

5月23日の総会で理事長に選出された。合わせて理事にも多くの若手が就き、執行部が大幅に若返った。周囲から「工藤理事長だからできることをやってほしい」と声を掛けられ、新しい発想と変革へ向けた行動

新たな発想と変革に期待

神奈川県鉄筋業協同組合理事長

くどう けいち
工藤 桂一氏

力に期待されている。それに応えていくよう団体運営のかじを取る。

組合加入のメリットに「情報交換と人脈づくり」を挙げる。「これまでは総会や賀詞交歓など年に3回しか全員が集まる機会がなかったが、これからは定例会を開き年に6回程度は集まって情報交換ができる場をつくりたい」と話す。

「ゼネコン各社の条件など情報を共有することで会員各社の選択肢が広がる」と意義を強調する。

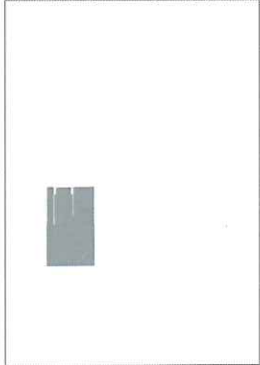
担い手の確保育成も喫緊の課題だ。「鉄筋業界の紹介映像や技術解説の動画マニュアルなども作成した

い。タブレット端末などで手軽に学ぶ手段があれば、若者にも興味を持ってもらえるのではないか」。外国人の技能実習生についても「組合としての受け入れ機

関設置を検討する」考えだ。業界の実情や要望を発信することの重要性も認識している。「行政への要望活動や神奈川県建設業協会など他の建設関連団体との連携も必要。意見交換会の開催などを積極的に働き掛けたい」と意欲を示す。

1997年成城大学経済学部経営学科卒。大手ゼネコン勤務を経て、2002年12月イー・ケー・エス（横浜市港北区）を起業し代表取締役。横浜市出身、48歳。

建設工業新聞



本紙



ひと

5月の総会で、神奈川県鉄筋業協同組合の新理事長に就任。

40代の理事

長はこれま

でに例がな

いという若

さだ。若い

継承と挑戦 業界の声を外に発信

本意ではなかった父の無念を「行政との意見交換の場を増やせ、県議会議員ら政治とのつながりを復活させ、人脈をつくり、業界の声を外に発信する必要性を感じている。」「神奈川県で目立て」とハッパをかけてくれた全国鉄筋工業業協会の岩田正吾会長の激励にも応えたいと考えている。

この業界

は多くの人

が関わって

成り立って

いる。心理

世代が活躍するため活動を支援。挑戦にかじを切った。

えてくれている先輩たちの思

いを受け止め、これまで積み

重ねてきた活動を継承しながら、

新たな取り組みに挑戦する。

ゼネコン勤務を経て、父が経営する会社に入社するもしばらくして倒産の憂き目にあう。

でも業界の要望を実現するため

上、理事会や青年部活動の活性化など、アイデアは豊富だ。中

でも業界の要望を実現するため

（報道部 丸川優希）

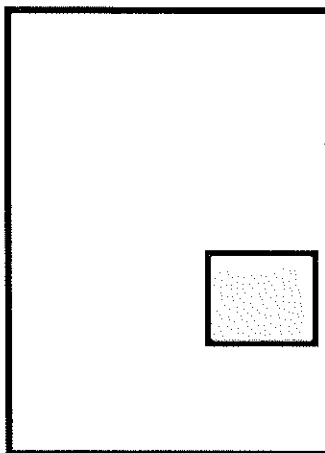


神奈川県鉄筋業協同組合理事長

くど 桂一さん

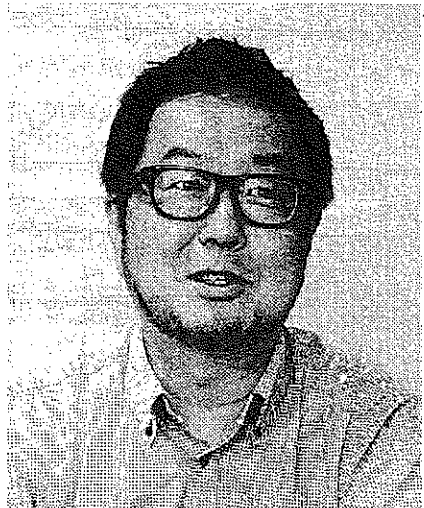
【略歴】成城大学経済学部経営学科卒。前田建設工業横浜支店、工藤工業での勤務を経て2002年にイー・ケー・エスを創業し、代表取締役社長に就任。神奈川県鉄筋業協同組合では青年部長、副理事長を歴任、5月の総会で理事長に就いた。横浜市港北区出身。48歳。

建通新聞神奈川



職人育成アプリ開発に意欲

新理事長インタビュー



神奈川県鉄筋業協同組合理事長

工藤 桂一氏

神奈川県鉄筋業協同組合の新理事長に、イー・ケー・エス(横浜市)の工藤桂一代表取締役が就任した。「自分の中でやりたいことや業界のためになることは全部やっていきたい。1社だけでは難しくても、会員各社の力を結集すればより良い業界にできるはずだ」と職人育成アプリの開発や外国人技能実習生受け入れ機関の立ち上げに意欲を示す工藤理事長に運営方針を聞いた。

――抱負は

「組合には約40社が加盟している。各社が悩んでいることや業界の困りごとをグッと集めて、課題を一つずつ解決していきたい」

――具体的に

「職人育成アプリを開発することも考えられる。動画で習得できるコンテンツや鉄筋の知識をクイズ形式で学べるコンテンツなどがあると、教育が効率化できるはずだ。字幕を付ければ外国人も利用できる」

「日本人のなり手が減少し、

外国人にシフトしていくことが予想される中、外国人技能実習生の受け入れ機関を創設することも考えている。将来的には、関東の青年部や関東の親会などへの展開もあるかもしれない」

――検討スケジュールは

「今年度は調査の年として、どのような書類が必要で、どれくらいの人員が必要になるのかを研究する。損益分岐点を分析し

技能実習生受け入れ機関立上げも

たい」

――外国人労働者についてどのように考えているか

「外国人のチームをつくりたい。特定技能の外国人が親方になれるような教育ができないかと考えている。特定技能者はそれなりに日本語ができるので、運転免許の取得を支援するなどすれば、特定技能者のチームができる。国籍関係なしに優秀な人材を引き上げられる仕組みが重要。特定技能者の下に日本人がいるというところがあっても良いはずだ」

――このほかには

「会員全員を対象とした定例会を年4回開催し、情報を共有するようにする。これまでは情報共有する場がほとんどなかったが、集まって意見交換できる場を大切にしていきたい。リアル、オンライン双方で参加できる仕組みづくりにも取り組んでいる」

――業界のPRについては「先日高校の先生と話をする機会があった。その際に、生徒と企業がつながりを持てる交流会について『出展してもらっても生徒が誰も来ないかもしれない』と言われた。このとき、建設業は『ここまで来ないんだ』と身にしみた。楽しい取り組みをしている会社もあるのに、建設業というだけで拒否反応が生まれてしまっている」

――デジタル化に力を入れているようだが

「若者に振り向いてもらうためには、価値観の押しつけではなく、心に響くものをつくる必要がある。私たちが思う鉄筋工

「異業種交流会によく行く。さまざまな業界の方と交流すると、製造業やサービス業などのデジタル化が非常に進んでいることを実感する。それが、建設業や鉄筋工事業にとつやたら適用できるか考えるきっかけになっている」

年4回の定例会で情報共有